



ほうなん

令和6年度 9月号

令和6年8月30日
杉並区立方南小学校
03(3322)7661

子ども達が楽しく学ぶことのできる学校を目指して

校長 吉岡 光弘

この暑い夏休みの間に、学校では2回に分けて、本校の目指す授業改善について、熱い議論を実施しました。1回目は、教員の校内研修に、講師として村上先生（RTF教育ラボ代表、本校校内研修年間講師）を招き、本校の目標の一つとしてしている「深い学び」とはどんなものなのかということを中心に話し合いました。2回目は、学校運営協議会に教職員が参加し、本校の学校運営協議会委員とともに、「主体的な学びを創造する授業デザイン」「学力を向上させるための手立て」「家庭の教育力を向上させるための手立て」という三つのテーマで、グループに分かれて議論を重ねました。

校内研修では、教員が考える深い学びとは何かという所から、議論を始めました。キーワードとして出てきたのは、「自ら課題を設定する」「他者と協力する」「他教科との関連に気づく」などでした。これを、学習者（児童）の視点から細かく分析し、実際の授業の場面では「どのような姿が深く学んでいるのか」、「深い学びに向かっている姿とはどんなものだろうか」ということを話し合いました。その中で、興味深かったのは、「よい発言をすること」だけを評価するのではなく、「友達と話し合って、解決しようとする姿」「粘り強く課題を解決しようとする姿」などにも目を向け、様々な観点から、児童の学びを見取っていくことが大切だという議論がされたことです。

学校運営協議会では、「主体的な学び」と「学力向上」を柱に話し合いを進めました。主体的な学びを実現するためには、授業の導入時に本物に出会わせたり、体験させたりして、児童に、その学習に対する興味を持たせることを大切にしてほしいという意見が多く出ました。また、意欲継続させるためには、教師が適切に声をかけ、評価することも大事であるという意見も出ました。「学力を向上させるためには、基礎的な学習のドリル学習に取り組ませることは効果的ではあるが、児童の意欲が継続しないことがあるので、児童に目的意識を持たせ、自ら課題を設定し取り組ませるようにしたい。また、ここでも大事なのが、教師の適切な声かけと家庭での励ましである。」という結論に至りました。

私は、この二つの熱い議論を通して、本校の目指す授業改善の方向性が少し見えてきた気がします。この夏の議論を整理すると以下になるとと思います。

授業者の視点	学習者の視点
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 具体物や体験活動を取り入れ、興味を持たせる。 ◦ 児童に自らめあてをつかむようにさせる。 ◦ 話し合いで、解決できる場面を設定する。 ◦ 既習事項、他単元、他教科との関連を意識して授業づくりをする。 ◦ 粘り強く、取り組めるように適切に声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 学ぶことに興味や関心を持つ。 ◦ 目的意識を持って取り組むようする。 ◦ 友達と協力して、課題を解決するようにする。 ◦ 既習事項、他単元、他教科との関連を意識して、学習に取り組む。 ◦ 粘り強く、学習に取り組む。

授業改善の要素は、多岐に渡り、上記のものだけに留まりません。しかし、本校の教師と村上先生、学校運営協議会委員の皆様とが協働して見つけた、授業改善の方向性、視点を私は大事にしたいと思っています。私が目指す学校は、教師が自ら授業改善に取り組み、子供たちが毎日楽しく学ぶことのできる学校です。2学期もできるところから授業改善を進め、さらに教育活動を充実させていきたいと考えています。